

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 13 学校名 岐阜各務野高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	社会のニーズに対応した高い専門性を培う高校として 地域や企業等と連携・協働し、主体的、創造的に考える探究的な学びを通して 地域の産業発展や活性化を担う人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	強くたくましい心身や豊かな人間性と社会性を育むとともに、社会の要請に対応した高い専門性を有する人材の育成を目指し、 一人一人が自己実現を果たすことのできる基礎的な能力と態度の育成に努める。 1 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (1) ビジネスや経済の諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展を図る総合的な能力と実践的な態度の育成。 (2) 情報社会で活躍できる創造的な能力と実践的な態度の育成。 (3) 人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の増進に寄与できる創造的な能力と実践的な態度の育成。 2 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 3 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送れるよう心身の健全な発達に努める。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・ビジネススマナーを身に付け、商業の各分野について高度な知識と技術を身に付けるとともに、想像力豊かでビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる生徒（ビジネス科） ・デジタルクリエイターとして、Society5.0で実現する新たな社会において情報を活用し、情報に対する新たな価値を創造することができる生徒（情報科） ・福祉に関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を身に付け、より良い福祉社会をめざすため主体的かつ協働的に取り組むことができる生徒（福祉科）
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・「礼節と礼儀を大切にされた商業人教育」と「商業の専門性を深める探究的な学び」を両輪として、経済社会で活躍できるように商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学びの推進（ビジネス科） ・情報産業に関する事象について、主体的に課題を発見し、ICT機器を活用しながら科学的で論理的な方法で創造的に解決していくための探究的な学びの推進（情報科） ・実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学ぶ意欲を高め、福祉に関する課題を発見し、職業人として求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する学びの推進（福祉科）
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・商業の諸活動に興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組む姿勢をもつとともに、経済社会に積極的に参画しリードできる人材になりたいと考えている生徒（ビジネス科） ・情報科の学習（プログラミング・映像制作・イラスト制作・アプリ開発・Webデザイン・ネット配信等）に深い興味・関心があり、その知識や技術の習得に努力を惜しまない生徒（情報科） ・福祉に関して興味と関心を持ち、将来の職業として福祉に関わる職業を希望している生徒（福祉科） ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に主体的に活動し、自己の成長や仲間とのつながりを大切にしようとする生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・VUCAの時代を迎え、答えのない問いに対して自ら考える力（振り返る力）や粘り強さが希薄である。 ・目的意識や見通しがもてず、自ら学ぶ意欲が低い。 ・学習面への意欲の低さにより、自己肯定感や自己効力感がもてない生徒が多い。 ・様々な環境や事情から、自分と向き合おうとする姿勢がもてない生徒がいる。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	専門学科で学ぶ意義を理解させ、専門分野の学習を深めさせるとともに、地域や産業との関わりを通して、専門的な知識や技能の定着を図る。
	進路指導	一人一人が将来の目標や明確な目的意識をもち、主体的に日々の学校生活に取組み、自己の進路を選択・決定・実現できる能力を高める。キャリア教育を推進し、Well-beingな社会の実現を目指し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ、社会人・職業人として自分らしく活躍することができる生徒を育成する。
	生徒指導	自ら判断、行動し、その結果に責任を持つ自己指導能力を育成するとともに、将来において望ましい人間関係を築き、社会的自己実現ができる資質や態度を育成する。
特別活動	生徒会活動、部活動、ホームルーム活動、学校行事での集団活動を通じて、心身の伸長を図るとともに、よりよい人間関係を築いていける実践的な能力を育成する。	
教育職員の業務量管理・健康確保措置の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムを活用して、教職員の在校等時間を適切に管理し、長時間勤務の解消を図ることで、教育活動の質の維持、向上を実現する。 ・部活動運営の適正化を推進し、部活動指導に係る教員の負担軽減を図る。 	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	産業界や大学等との連携を通し、専門性の深化を図り、地域課題等に対して多面的に考察・分析し、課題解決に向けた提案ができる能力と態度の育成をする。	施策Ⅰ-4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教員による授業評価アンケート ・「ICTを活用した個別最適な学び」における自主的な課題取組状況 				
	確かな学力を育成するため、個の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を充実させる。	施策Ⅱ-9					
	基礎的・基本的な学力・技能の定着を図り、目的意識をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。	施策Ⅱ-8					
進路指導	インターンシップ・施設実習・外部講師による講話等を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ報告書や事前事後のアンケート調査 ・検定等の取得状況や、関連職種への就職・進学状況 				
	専門教育の充実に努め、専門的な知識や技術を生かした進路実現を目指す。	施策Ⅱ-14					
	大学説明会や企業訪問等を通して情報提供に努め、キャリアカウンセリングの充実を図る。	施策Ⅱ-13					
	Well-beingを重視し、経済的利益だけでなく、人と地球を大切にす価値観を育成する。	施策Ⅱ-10					
生徒指導	きめ細かな指導と支援を充実させ、基本的生活習慣の確立と生徒自身による規律意識の向上を図る。	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度比較による遅刻者数統計の確認 ・各種会議での横断的情報共有 ・いじめ対策の徹底と教育相談との連携 				
	組織的・多面的視点からの生徒理解が可能となるよう、教職員間で有機的な情報共有できる体制を整備する。	施策Ⅰ-3					
	他の生徒に対して価値ある存在として一人一人を認め合い、安心して学校生活を送ることができる学びの場を構築する。	施策Ⅰ-3					
	生徒が発信するプラスの思いを全校で共有し、他者への思いやりの気持ちを大切にす雰囲気醸成する。	施策Ⅰ-2					
特別活動	自身の役割や責任を果たし、もてる能力を生かしながら、生徒会活動や各種委員会活動に積極的に取り組むことを通して、学校づくりを支える意識を醸成する。	施策Ⅳ-24	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身による企画内容、生徒会執行委員会や各種委員会の年間反省、行事実施後のアンケート ・各部活動の活動状況及び実績や、ボランティア活動の内容と回数 				
	学校行事やホームルーム活動などを、生徒自身で主体的に企画・運営できる力を育成する。	施策Ⅳ-20					
	部活動の活性化に加え、ボランティア活動についても積極的に取り組むことにより、社会に貢献する意識の向上を図る。	施策Ⅳ-25					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和9年 月 日 学校関係者評価 実施日：令和9年 月 日

--	--